

市民と議会の意見交換会

報告書

平成 30 年 5 月 12 日（土）開催



I. 市民と議会の意見交換会の概要	1
II. テーマごとの質疑・意見【要旨】	2
III. 参加者アンケートの結果	21

長野市議会 / 意見交換会実行委員会

I. 市民と議会の意見交換会の概要

1. 主 催 長野市議会
2. 日 時 平成30年5月12日（土）午前10時～正午
3. 場 所 長野市役所第二庁舎10階・講堂及び会議室201・202・203
4. 内 容

①開会あいさつ…北澤哲也 意見交換会実行委員会副委員長

②議長あいさつ…小林治晴 議長

③意見交換テーマの説明

◎テーマ1：未来を見据えた公共施設の在り方について
～より良い資産を引き継ぐために求められる

施設の複合化・多機能化とは～

公共施設の在り方調査研究特別委員会・・・・・・・・・・高野正晴委員長

◎テーマ2：小中学校の在り方、小中連携教育について

小・中学校の在り方調査研究特別委員会・・・・・・・・・・岡田荘史委員長

◎テーマ3：中心市街地活性化と公共交通について

～均衡あるまちづくりのために～

まちづくり対策特別委員会・・・・・・・・・・塩入 学委員長

◎テーマ4：農地の有効利用と耕作放棄地対策について

～後継者不足、高齢化が進む

長野市農業の次の一手を考えよう！～

農林業振興対策特別委員会・・・・・・・・・・阿部孝二委員長

④意見交換の進め方説明・・・・・・・・・・西沢利一 意見交換会実行委員会委員長
(テーマごと各会場へ移動)

⑤テーマ別 意見交換

◎テーマ1：未来を見据えた公共施設の在り方について・・・・・・・・会議室 202

◎テーマ2：小中学校の在り方、小中連携教育について・・・・・・・・会議室 203

◎テーマ3：中心市街地活性化と公共交通について・・・・・・・・講 堂

◎テーマ4：農地の有効利用と耕作放棄地対策について・・・・・・・・会議室 201

(テーマ別の会場でそれぞれ閉会)

5. 参加者 56人の市民の皆様にご参加いただきました。
手話通訳、託児所のご利用はありませんでした。

※ 昨年度から従来の議会報告会の開催形式を見直し、特別委員会ごとにテーマを決めて意見交換会形式とし、今年度は2回目となります。参加者からのご意見をお聴きし市政に反映させていくことに重きをおいた運営としています。

各テーマ別会場の運営については、特別委員会の話し合いにより、司会、記録など役割分担を決めました。

Ⅱ. テーマごとの質疑・意見【要旨】

●意見交換会で出された質疑・意見、それに対する今後の対応について、報告します。質疑・意見は要約してあります。

◎未来を見据えた公共施設の在り方について ～より良い資産を引き継ぐために求められる 施設の複合化・多機能化とは～ 【公共施設の在り方調査研究 特別委員会】

市民参加者：12人

【◎委員長 ○副委員長】

出席議員：◎高野 正晴○寺沢 さゆり・手塚 秀樹・生出 光・松井 英雄
松田 光平・鎌倉 希旭・池田 清・中野 清史・西村 裕子

市民参加者①【若槻地区】

・公共施設が老朽化してきているということだが、建築物には耐用年数がある。建設段階で、先を見越して、耐用年数を考慮した建替えや改修の計画を作ることはできなかったのかと考える。



手塚 秀樹 議員

・木造施設は40年、非木造施設（旧耐震）は50年という使用期間の目安をもって対応している。今までは定期的な改修をし、長寿命化するという意識があまりなかった。今後は、長寿命化により使用期間の目安は80年という考えで施設を整備していく。

市民参加者①【若槻地区】

・長寿命化を図っていただいた方が、建替えるより費用がかからないと思う。

市民参加者②【若槻地区】

・オリンピックの施設やモニュメントを残していても、情報を発信していかないと住民の記憶が薄れていく。住民の記憶に残るようなことを実施して、施設を残す取り組みをしていったほうがよいのでは。

市民参加者③【大豆島地区】

・私たちの世代は、オリンピック施設のメリットを享受していない。これまでのワークショップの様子は分からないが、ワークショップでは世代を超えた情報共有の機会を作ってほしい。

松井 英雄 議員

・篠ノ井地区のワークショップでは、南部図書館について世代を超えて議論した。若い人からは、学校図書館を活用すれば南部図書館はいらないのではという意見が出た一方、上の世代の方からは、南部図書館を地域の核となる施設にしたいという意見が出た。

市民参加者③【大豆島地区】

・大学に入って初めて公共施設の役割を学んだ。子どもの頃は考えることはなかった。公共施設の役割は、子どもと一緒に考える必要があるのではないか。公共施設の役割を若い世代に伝える機会を充実してほしい。

市民参加者④【長沼地区】

・仕事で他の自治体の公共施設に関するアンケートを取りまとめた。市民が存続を望む施設や利用頻度の高い施設が行政の考えるものと違うものがあつた。利用がなくても残す価値があると思う市民もいる。住民の意見をよく聞いてほしい。

市民参加者⑤【更北地区】

・オリンピック施設は記念のものだから残すことで費用をかけていくのか、また、維持に費用がかかるので、壊して、新しくそれ相応の施設を作るのかという議論も必要ではないか。

中野 清史 議員

・人口減少により、このまま公共施設を残していくことは難しいという状況にある。そのため、地域の施設をどうしていくのかというワークショップを各地区で実施している。オリンピック施設等は、市全体の施設であり、地区の議論だけでは決められないため、別で検討をすることになる。

市民参加者①【若槻地区】

・地元で市の施設を工事する際に、事業者説明会の時に出した住民の声が反映された。公共施設の建替えや改修の際には住民の意見を聞くようにしてほしい。

市民参加者⑥【川中島地区】

・公共施設は、これまであまり利用したことがなく、地区の行事で利用する程度だった。若い人も利用できるようにしてほしい。

市民参加者⑦【吉田地区】

・スパイラルなどオリンピック施設の今後のことを知りたかった。知らない人が多いので、広報をしてほしい。回覧などもあるが、欲しい情報は市民がとりにいく必要がある。

・国がお金をくれないからスパイラルを閉じたと聞いている。札幌オリンピックなどで再び利用できることもあるかもしれない。その時に遅れをとらないように常に情報のアンテナを張っておける市の部署が必要ではないか。

市民参加者⑧【小川村】

・建前ばかりで本音が聞けないと思っていたがオリンピックを知らないという若い人の意見を聞いたことは大変参考になった。本音で話し合えることの大切さを感じた。

市民参加者⑨【篠ノ井地区】

・小中高の間、公共施設を身近に感じてこなかった。老朽化の問題も学校の授業で初めて耳にした。なるべく多くの人ができる公共施設であってほしい。意見を出し合っていきたい。

高野 正晴 委員長

・若い人にとって、一番身近にある公共施設は学校である。まずは、身近な施設について、どうするか考えるところから始めていったらどうかと感じている。意見を出し合いながら、住民自ら地域を考えることを続けていって欲しい。

【特別委員会の今後の対応】

大学生から 70 歳以上の方まで幅広い世代の方々と意見交換が出来ました。

若い世代の参加者からは、「公共施設は、これまであまり利用したことがない。」、「情報共有の機会を作って欲しい。」、「公共施設の役割を若い世代に伝える機会を充実して欲しい。」といった意見が出され、これまでは公共施設を身近なものと考えていなかったが、これからの長野市を作っていく世代として、今後はしっかりと考えていきたいという思いが伺えました。

また、複数の参加者からは、公共施設の建替え等の際に、「住民の声を丁寧に聞いて欲しい。」という意見が出されました。

これらの意見を踏まえ、本委員会としては、若い世代が情報共有できる機会と一緒に検討いただける場の更なる充実、また、これから個別施設計画（小学校や公民館などの施設区分ごとに維持管理・更新等の内容を定める計画）を作っていくに当たり、様々な機会を捉え、市民への説明と意見聴取に努めていただくよう市へ求めていくとともに、施設総量（建物の床面積）を現状から 20%削減するという目標達成に向け、どのように市民の皆さんにご理解いただきご協力頂けるか、これからも調査・研究を進めていきます。

◎小中学校の在り方、小中連携教育について 【小・中学校の在り方調査研究 特別委員会】

市民参加者：16人

【◎委員長 ○副委員長】

出席議員：◎岡田 莊史○小泉 栄正・布目 裕喜雄・黒沢 清一・野本 靖
佐藤 久美子・市川 和彦・近藤 満里・鈴木 洋一

市教育委員会の諮問機関である活力ある学校づくり検討委員会がまとめ、現在パブリックコメント中の「少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境のあり方について」審議のまとめ（案）及び市立小中学校の児童生徒・学級数の推計値を資料にした意見交換となりました。



市民参加者①【更北地区】

・望ましい教育環境というスローガンについて、家庭・地域の位置づけ、定義を具体的に示した方が良いのではないか。異年齢交流、縦横の連携を図るには家庭と地域の役割が重要だと考える。また、県の学びと自治の取り組みについて、長野市としてどう連携していくのか。

市民参加者②【朝陽地区】

・子どもたちが将来、長野に戻ってくることが大事。若者の移動で流出より流入が多いのは全国で7都道府県のみ。学校規模について、単純な集約では長野市の特色が出せないのではないか、地域の特長を出すには地域の学校を中心とすることで地域の活力にも繋がっていく。

・WHOでは100人/校が適正規模としていることを考えれば、現在の日本における基準は大き過ぎるのでは、また、小規模校を否定すべきではないと思う。

市民参加者③【松代地区】

・教員をしているが、保護者より「どう育てたらいいのかわからない」との相談を受けた。近所で相談する場、人もなく地域で孤立している。学校では出来ることはやるが、家庭と地域を切り離されているのではないか。学校によっては施設的にも人数が多すぎる場所もあり、様々な制約を受けながら学校生活を送っているケースもある。クラスには様々な児童がおり、個々に丁寧に対応したいが三

十数名では対応できない。自分は山の中の学校に通っていたが、地域の方々に見守られて育った。ある程度の小さな学校で顔見知りになって助け合いながら学ぶ環境は大事ではないか。

市民参加者④【信更地区】

- ・小学校に娘が通っているが、子どもも親もみんなの顔、名前が分かることに幸せを感じる。パブリックコメントの資料にある、小4までは地域で、小5からの集団と分かれることについては、現在の小規模校が小4までに区切られることで更に少なくなることに不安を感じる。小5、6の集団ではどういった形になるのか、更に中学校では3学年の中での集団とは出て行くのか、入ってくるのか、疑問がある。

- ・市内全校でコミュニティースクールが実施されているが、地域と学校の関係が上手く連携できていない、学校も開かれていない、地域もどう接したらいいのか分からない。もっと上手く出来たらいい。

市民参加者⑤【信濃町】

- ・学年に1学級という小中学校生活を送った。地域の方から地域の民話を聞いたりしたことが今でも印象に残っている。小規模の良さがあり、地域との関係が密接であったが、幼保から中学卒業までの10年以上一緒に学校生活を過ごすことになり、人間関係が固定化され、新たな発見が少なくなることから、ある程度の人数（規模）は必要ではないか。

市民参加者⑥【川中島地区】

- ・社会環境の変化が大きいですが、昔、地域、まちで地域の子どもを見ていた。共働き世帯の増加で町が閑散としている。現在、地域では朝夕の子どもの見守り、あいさつ運動を行っている。地域の協力が大事であり、学校—家庭—地域の密接な関係を持てるような地域となることで犯罪、事故の防止にも繋がるのではないか。

市民参加者⑦【大豆島地区】

- ・PTA役員経験から、地域との関わりでは学校の敷居が高いと感じる。また、教員が地域と関わっていくのも難しい面があるが、学校にボランティア等で地域の方々が来校される機会も増えてきている。学校に来られた方は「楽しかった」という方が多い。

- ・保護者自身も学校に行く機会が少ない。PTA役員を引き受けたから、親同士、地域との繋がりを持つことができたが、そうした機会がなければ、それぞれの連

携の取り方が分からないのが現状ではないか。

市民参加者⑧【大豆島地区】

・大きな学校で育ってきて、そうした環境が普通だと考えていた。学校規模の大小により、学び方、身に付き方等の差が生じることはないか。学校別の減少傾向をみると対策が必要と感じる。

市民参加者⑨【大豆島地区】

・大規模の学校は忙しく、子どもたちも急かされていると感じる。時代背景から時に、地域の方であっても話しかけられても話してはいけない、ということがあった。小規模校では地域との交流が盛んで、それが継続されるのではないか。大規模校ほど地域との交流がしづらい環境になっているのではないか。

市民参加者⑩【松代地区】

・児童数が多いことで指示命令が行き届かないケースがあり、行動が遅くなりがちになる。少人数であれば一人ひとりよく見ることが出来ることから行動が早くなる。大規模校では姉妹学級を大事にしており、異年齢の交流が盛んに行われている。小学校が育んできた文化、やり方があり、異年齢の縦の繋がりを大事にしてきたことから、新聞報道の1～4年生と5～6年生を切り離す考えには違和感ある。

市民参加者⑪【信更地区】

・新聞記事の1～4年、5～6年で区切るのは違和感がある。具体的にどの学校に分けられるのか、大規模校と小規模校の児童では動きが異なるように思う。小規模校の児童が5、6年でこれまでと異なる学校に入りついて行くことができるか不安。

市民参加者⑫【更北地区】

・地域の総会で地域内の各学校長が描くランドデザインを発表していただいた。地域として何が出来るのか、協力できるのか考えていくことが必要。

・以前、小規模校から大規模校へ転校された方の話を間接的に聞いたが、大規模校の方が楽しい、といった感想だったとのこと。個々で違いはあると思うが、大事なのはコミュニケーション。学校-家庭-地域のそれぞれの考え方をお互い学ぶことが大事ではないか。

市民参加者⑬【芹田地区】

・自分は一学年一クラス的环境で育った。少人数は親としては安心だが、学力を考えると、競争し合えるある程度の規模は必要だと思う。学校の問題については、親と学校が利害関係者（主体者）であり、地域の人は傍観者であるから、期待しすぎない方がよい。

市民参加者⑭【芹田地区】

・自分は1学級45人の規模で育った。娘は1学級33～34人だが、それでも多いと感じる。教師が学級の秩序を守るのは難しそう。国は、35～40人との方針を出しているようだが、これ以上人数を増やすのは問題があると思う。

・学校行事や学習内容、部活など、長野市内の公立小学校でも統一していないのはなぜかを感じる。

市民参加者⑮【大豆島地区】

・地域によって、規模の差が出るのは仕方ない。もっと先生に権限を与えるべきではないか。それと同時に、地域との密接な関係をもっと持つべき。各種団体や高齢者などと接する時間を増やすことで子どもに良い影響があると思う。

市民参加者⑯【吉田地区】

・小規模、大規模それぞれプラス面もマイナス面もある。長野市全体として学校の在り方を考えた場合、2029年には大岡中の生徒は4人、一方、犀陵中などは、700人を超える学校も推計される。地域によって課題は違う。地域、保護者、学校で一緒に考えていく事が大切ではないか。

市民参加者⑰【丹波島地区】

・PTA役員をしている。学校の在り方については、市P連でも同様の説明はあったが、長野市としてのアクション、ビジョンが判らない。PTA役員は変わっていくので、この問題もなんとなく流されていってしまう。親への研修も年2回程度だ。市P連にいわれてもどこまで出来るのか疑問だ。

・議会、教育委員会、音頭をとるのはどこなのか。大きな問題だけにビジョンが見えない。

岡田 荘史 委員長

・意見を聞く場は作っているが、語り合う場が必要だと思う。議会でも教育委員会のパブコメに基づいて、議論の最中である。皆さんからの意見を参考にしたい

という思いで本日伺っております。

市民参加者⑱【吉田地区】

- ・地域で子どもをどう育てるか。中心市街地では、通学区と行政区のズレを解消しないと、地域ぐるみの取り組みは実現しにくい。
- ・住民自治協議会と学校が連携した方法を地域でも提案しているが、大切なことだと思う。

市民参加者⑲【松代地区】

- ・パブコメの意見を求められても、それに応える時間的な余裕がない。教員も忙しすぎ、休日返上で働いているのが現状。教員からアクションを起こしたり、意見を出したりする余裕がない。

市民参加者⑳【大豆島地区】

- ・先生は忙しすぎる。PTA 行事にも参加してもらっているが、先生が休まないと健全な話もできない。

市民参加者㉑【信更地区】

- ・教育委員会に小規模特認校の要望書を出したが、現在検討会や議会で在り方を検討している段階なので、当分返答できないとの回答。信更は小学校を統合したものの児童数は減り続けている。これ以上の減少は親としても不安。

市民参加者㉒【信濃町】

- ・すべての教科で教科担任をそろえる事が望ましいとはどういう意味か。

市民参加者㉓【吉田地区】 教育関係者

- ・文部科学省で児童数に応じた教員の配置基準が決められており、小規模校では教員の数が限られてくることから、すべての教科の教師をそろえる事が困難ということ。

【特別委員会の今後の対応】

保護者の立場、地域住民の立場、教員の立場から、学校と地域とのつながり・支え合いや学校の規模、発達段階に応じた新たな学びの場、教員の働き方や資質向上といった課題について、多面的で貴重なご意見をいただきました。

特に、少子化のもと、児童・生徒数の減少を見据えた学校の在り方については、活力ある学校づくり検討委員会でも論議されたように、できるだけ地域に学校を残したいこと、子どもの発達段階に応じた集団の中での学びも重要であることの両論が指摘されたと受け止めています。

また、発達段階に応じた新たな学びの場について、新聞報道のあった内容にも関連しますが、今後の方向性に対して不安を抱いている市民の方も少なくないことを改めて確認しました。

今後は、保護者、学校教員、地域の皆さんの御意見を踏まえ、「少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方について」審議のまとめ（案）のパブリックコメント結果等に対し、特別委員会として提言など積極的な提案につなげられるよう調査・研究を進めてまいります。

◎中心市街地活性化と公共交通について
～均衡あるまちづくりのために～
【まちづくり対策 特別委員会】

市民参加者：15人

【◎委員長 ○副委員長】

出席議員：◎塩入 学○山本 晴信・勝山 秀夫・小林 義直・宮崎 治夫
滝沢 真一・野々村 博美・望月 義寿

市民参加者①【芹田地区】

- ・バスの便が悪いため車を使うようになる。免許を返納すれば病院にも行けない。
- ・権堂地区に大型商業施設が出来れば活性化するというのは間違い。既存の空き店舗の活用を。



市民参加者②【芹田地区】

- ・中心市街地を活性化しても、そこに来る移動手段がなければだめ。高齢者にとってバス停までの移動が大変。通勤路線と生活路線の二種類を検討すべきでは。
- ・免許を返納した人が利用しやすいよう路線の検討が必要。
- ・ノンステップバスが導入されているが、車いす利用者にとっては、段差解消にはなっていない。
- ・路面電車の導入や、車いす利用を前提とした駅の構造について考える必要がある。健康な人だけで考えても、無駄な議論となる。

市民参加者③【更北地区】

- ・免許を返納すれば、バスは不便で医者に行く足が無い。
- ・中心市街地を活性化しても、中心市街地に行く手段がなければ意味がない。都市計画に当たっては、公共交通を一緒に考えるのが普通。特に遠隔地からお年寄りはどうのようにしたら来られるのか。
- ・中央病院までぐるりん号を廻してほしい。

市民参加者④【松代地区】

- ・長野大橋と丹波島橋の交通量は県下でもトップ。渋滞解消を図るべき。
- ・コンパクトシティーを推進するならば、人口の多い地域を優先して公共交通で接続することが必要。

- ・マイカー対策を図る観点からも BRT などの新交通システムの導入が必要では。

市民参加者⑤【第一地区】

- ・城山公園の整備にあたっては、観光客への配慮も必要だが、市民を主眼に置くべきでは。
- ・もんぜんぷら座は、建替えをしてほしい。（通学の途中で学習に活用。）
- ・中央通りは道路が狭い。自転車道を整備すべきでは。

滝沢 真一 議員

- ・城山公園については、観光客を意識しつつも日常的な市民の憩いの場となるよう注視していく。

市民参加者⑥【松代地区】

- ・高速バスは、東京まで 3000 円、市内バス料金は高い。

市民参加者⑦【川中島地区】

- ・新田町交差点は、自転車と歩行者と一緒に走っている。（危険解消の）交通整理が必要。
- ・「くるる」は観光客は使えない。JR の Suica も使えるようにしては。

市民参加者⑧【吉田地区】

- ・長野はバス料金が安い。安くなれば利用者も増えるのでは。
- ・市民病院へのぐるりん号を土・日にも運行してほしい。また双方向運行はできないか。
- ・バス路線の無いエリアにもぐるりん号の導入を。

滝沢 真一 議員

- ・市内の高額なバス利用料金についても、今後検討をしていく。

市民参加者⑨【松代地区】

- ・松代から篠ノ井の間のバス運行の充実を要望。併せて、ルートを検討も必要。
- ・バス会社の意見のみを聞くのではなく、バスを利用する市民のニーズや意見を参考にしルートを検討してほしい。

市民参加者⑩【第三地区】

・鶴賀から権堂に至る間の活性化について、地域の聞き取り調査も行われているが、回答が得られていない。今後の予定等について市民に伝えてほしい。

野々村 博美 議員

・権堂への大規模店舗の導入の話は、議会側にも報告はない。

市民参加者⑪【安茂里地区】

- ・長野駅の見やすいところへ大きな時計を設置してほしい。
- ・長野インターの構造について検討が必要。（出入り口を広く。）

市民参加者⑫【松代地区】

・犀川南部の人がバスで中心市街地に行きやすくすることが大切。結果として、権堂に行く人も増えるのでは。その為にも BRT の検討が必要。

市民参加者⑬【吉田地区】

- ・市がバス事業者に対して補てんをするのはどのような場合か。また、この時の補てん額はどの程度か。
- ・千葉県柏市のセダン型乗合タクシーは、長野には導入できないのか。

山本 晴信 副委員長

・柏市では、バス路線の空白エリアに対して乗合タクシーを導入している。長野市でも「カシワニクル」とほぼ同様の運用が行われている地区もあるが、柏市とは市域面積、及び私鉄の交通網等相違点もある。今後も利便性等を含め柏市の動向に注視していく。

市民参加者①【芹田地区】

・バスの利便性を向上させても中心市街地に魅力がなければ人は集まらない。シャッター通りを解消し魅力のある街にしてほしい。

市民参加者②【芹田地区】

・今回の各意見に対する議員からの意見を聞きたい。

塩入 学 委員長

・従来の特設委員会には公共交通が調査項目に入っていなかった。しかし、今回

は交通政策課が都市整備部に所属したため公共交通も検討することとなっており、均衡あるまちづくりを推進するためにも公共交通の検討は不可欠。今回の意見を委員会としてまとめ9月定例会等で要望していく。

・今後バス路線の廃止、及び代替バスの運行等の対応が必要な場面も生じてくる。また、中山間地域では大型バスの運行が難しいためデマンドタクシーを導入しているケースや国の助成を得て路線を維持しているケースもある。しかし利用者が増えなければ解決にはならない。また、バス会社でも新たなバスの購入が難しいという面もある。さらに、長野電鉄とアルピコバスが共同して運行している路線もある。

市民参加者⑭【地区不明】

・今回の意見を集約して今後の方針を明確にしてほしい。

塩入 学 委員長

・皆さんから頂いた意見は整理をし、出来る限りお答えする。また、今後も委員会での検討、及び行政への要望を行っていく。

市民参加者【地区不明】

・市民の意見を反映するため、国土交通省の動きについても注視してほしい。

宮崎 治夫 議員

・長野市の南北方向の交通政策については、本委員会で協議を行っている。

小林 義直 議員

・長野市の道路は、長野駅を中心に放射状に整備されている。しかし、各地域ではもう少しきめの細かい路線網整備が要望されている。今後も皆さんの意見を聞きながら、行政に反映させていく。

望月 義寿 議員

・行政としても議会としても利用者の意見・要望を聞き、利便性を高めるよう努力していく。

勝山 秀夫 議員

・中心市街地の活性化と公共交通問題は難しく簡単には解決できない。今日の意見を参考として、意見を形に変えていくようにしたい。また、特に重要な課題に

については、特別委員会での議論を踏まえ行政に要望していく。

野々村 博美 議員

・本日の意見のうち、すぐに行政に反映できるものは委員会として対応していく。
また、さらに議論が必要な課題については、今後も継続していく。

地元バス会社 役員

・公共交通は、個々に要望が異なるため、それらをどの様に実現していくかが難しいため、最大公約数を採用することとなる。また運賃が高いというご指摘ではあるが、職員の確保、高齢化、臨時雇用の増、等社内努力を行っているが、会社の運営に関する最低限の経費は必要となる。公共交通の使命を再認識し利用者の皆さんの要望に応えられるよう努力していく。

市民参加者⑧【吉田地区】

・利用客の少ない昼間はバスの小型化により運行すれば、買い物難民も助かるのではないか。

市民参加者⑩【第三地区】

・今回のような意見交換は有意義、今後も継続を。ただ、質問に対する回答を頂きたい、また市民に周知して頂きたい。

【特別委員会の今後の対応】

ご参加いただいた市民の皆様から多くの意見を頂きました。

ご意見の中から、特別委員会で協議してきた内容を踏まえつつ、以下の事項について理事者に要望して参ります。

1 まちづくりについて

- ・県立信濃美術館及び城山公園の再整備に加えて、老朽化した城山公園一帯施設の整備検討を具体的に進めること。
- ・市街地活性化を図るための人材を育成するため、新設された県立大学の学生を始めとした若い世代の意見を施策に取り入れること。

2 公共交通について

- ・少子高齢化が進むなか、市民が利用しやすい公共交通の在り方を検討すること。
- ・渋滞を解消するために、自家用車から公共交通への利用転換、BRT等の導入可能性等について検討すること。

なお、均衡のとれたまちを創るためには、市民の皆さんが住んで良かった、住んでみたいと思えるまちづくりを目指す必要があります。

本委員会では、今回の意見交換を踏まえて引き続き調査・研究を継続していきます。

◎農地の有効利用と耕作放棄地対策について
～後継者不足、高齢化が進む長野市農業の次の一手を考えよう！～
【農林業振興対策 特別委員会】

市民参加者：13人

【◎委員長 ○副委員長】

出席議員：◎阿部 孝二○北澤 哲也・西沢 利一・田中 清隆・つげ 圭二
竹内 茂・小泉 一真・三井 経光・松木 茂盛

市民参加者①【川中島地区】

・耕作放棄地対策でNPO法人「夢テラス川中島」を昨年立ち上げた。NPO法人に対する県民税・市民税の負担を明確にしてほしい。また、行政のNPO法人への支援を3年から5年にしてほしい。



小泉 一真 議員

・地方税法に従って長野市も法務、税制を敷いているので、国の方で何とかしていただかなければ。こういった事情があるということをご理解いただきたい。

松木 茂盛 議員

・NPO法人の実態を伺いましたので、模索していきたい。

市民参加者②【吉田地区】

・農林業センサスの調査は5年ごとに行われているが、私の土地は統計には入っていないようだ。長野市は実態を把握しているのか。

市民参加者③【豊野地区】 農業委員

・長野市の実態は農業委員会で土地を一筆ごとに調査し把握している。

市民参加者④【信更地区】

・耕作放棄地の現状把握には、農業委員会の統計を使うべきではないか。

松木 茂盛 議員

・農林業センサスは国全体の統計であり、補助金などをお願いする際はこうした公的な数字を利用している。

市民参加者⑤【川中島地区】

- ・農業現場の人手不足を、海外の方に頼ってはどうか。

市民参加者⑥【柳原地区】

- ・農事組合法人「夢ファームこじま」を立ち上げたが、高齢になって作業に出られない状況に陥っている。

松木 茂盛 議員

- ・農業公社の「農作業お手伝いさん」事業のご利用をぜひ考えてみてほしい。

市民参加者⑦【信更地区】

- ・農地を購入するには農家資格を持っていないとできないが、空き家と隣接した農地を含めて購入するにはどうしたらよいか。

市民参加者⑧【豊野地区】 農業委員

- ・中山間地域では、10a以上の面積で農家創設できる。農業委員会に相談してほしい。

市民参加者⑨【若槻地区】

- ・若槻で一般社団法人として、耕作放棄地対策の取り組みで市民農園を168区運営しているが、さらなる拡大をしたいと考えている。ぜひこうした一般社団法人への支援もお願いできないか。

松木 茂盛 議員

- ・他の地区では遊休農地活性化委員会、対策委員会を作り、市の助成対象のソバやエゴマを撒いて収穫、売却をしている。参考にしていれば。

市民参加者⑩【安茂里地区】

- ・幼稚園児から大学生まで、農業体験を幅広くできる体制を作っていただきたい。それによって農業に対する理解も深まる。

市民参加者⑪【大豆島地区】

- ・農地を売るか、貸したいと考えているがどうしたらよいか。

市民参加者⑫【豊野地区】農業委員

・農業委員会では、平成 29 年度から農地を借りたい、貸したい又は買いたい、売りたいという方の相談会を始めたのでご利用いただきたい。

市民参加者⑬【吉田地区】

・農地を相続したが維持していけるか不安。

市民参加者⑭【長沼地区】農業委員

・耕作放棄地にしないために農業振興地域の緩和措置も考えていかなければならない。

市民参加者⑮【若槻地区】農業委員

・幼児からの農業体験を積極的に提供する。（育成会に協力を求める）
・中山間地域に指定されると農業に対する支援が受けられるが、中山間地域の指定地域の拡大をお願いしたい。

【特別委員会の今後の対応】

今回の市民と議会の意見交換会では、農業者の高齢化と農業の後継者不足の問題がさらに浮き彫りになりました。現在、長野市で始めた親元就農者支援事業の更なる周知、拡大はもとより、外国人就農者の新規登用などを考えていく必要があります。

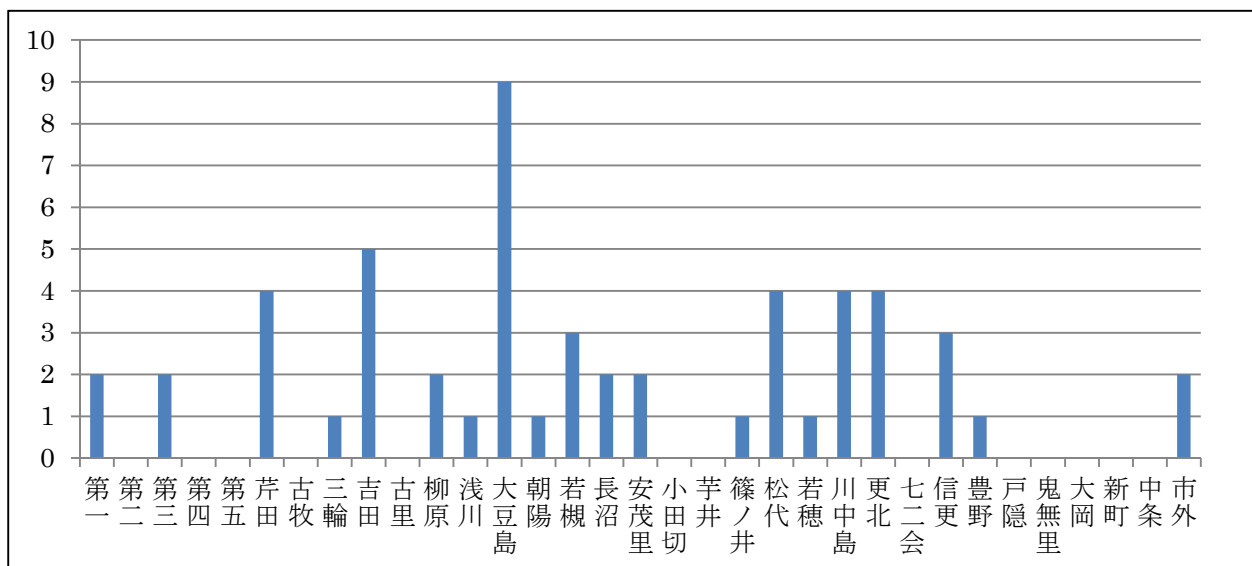
また、農業も NPO 法人、一般社団法人化してきている事例が見られますが、運営の厳しさを確認できました。これから税負担や行政としての支援拡大も研究課題として考えていく必要があります。

これらの課題に対しては、認定農業者の育成、農業者の組織化支援、農作業支援により中心的な担い手となる農業者の育成を図る必要があります。農業公社、農業委員会、農業協同組合などとの更なる連携を図り、新規就農者の支援、農業研修センターによる研修、企業の農業参入の促進による、新たな担い手の確保など、長野市農業振興アクションプランの具体的な取組を注視し、調査・研究を進めていきたいと考えます。

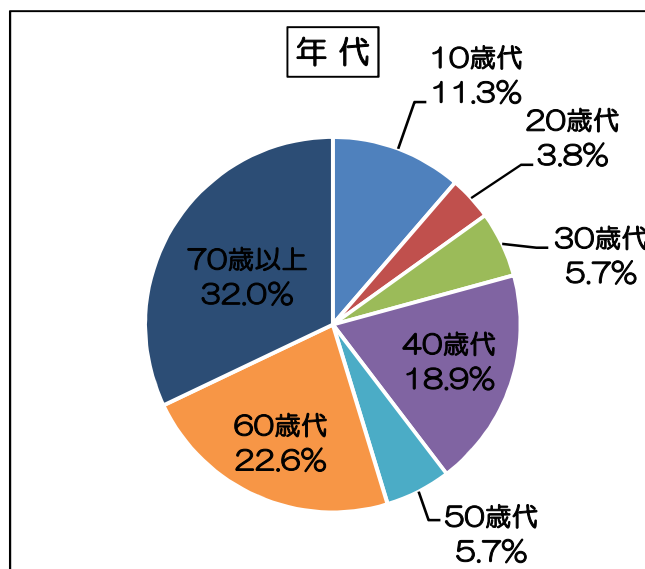
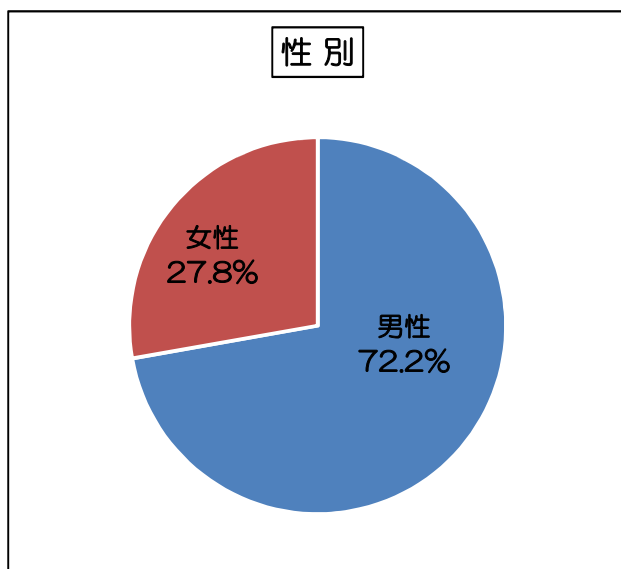
Ⅲ. 参加者アンケートの結果

◆ 56名の方に参加していただき、54名の方にアンケートにご協力いただきました。

◆問1：お住まいの地区

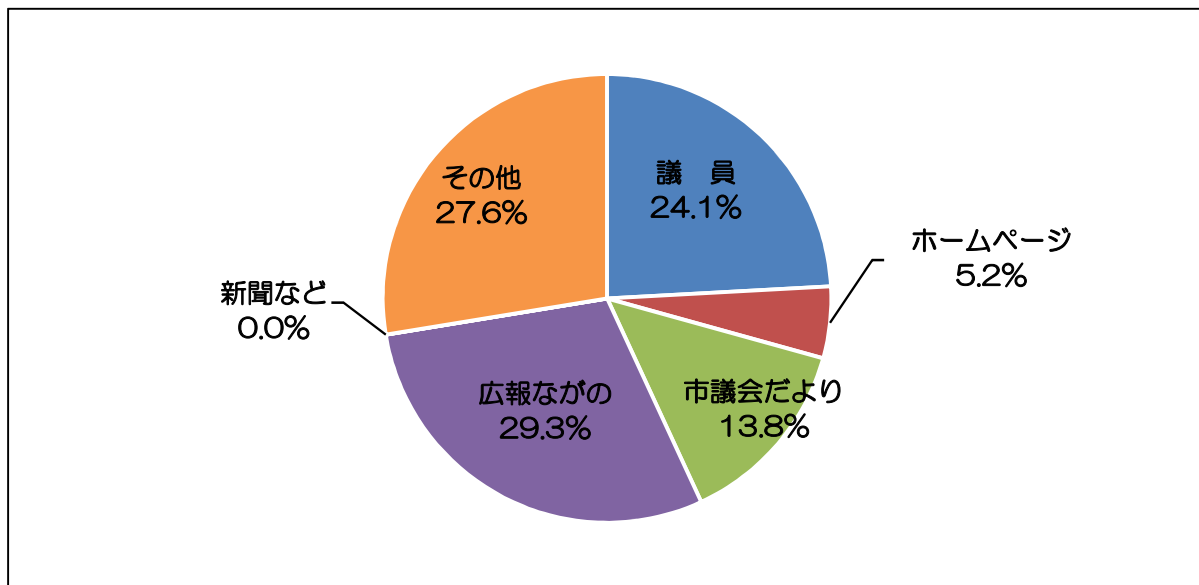


◆問2・問3：男女別・年代別



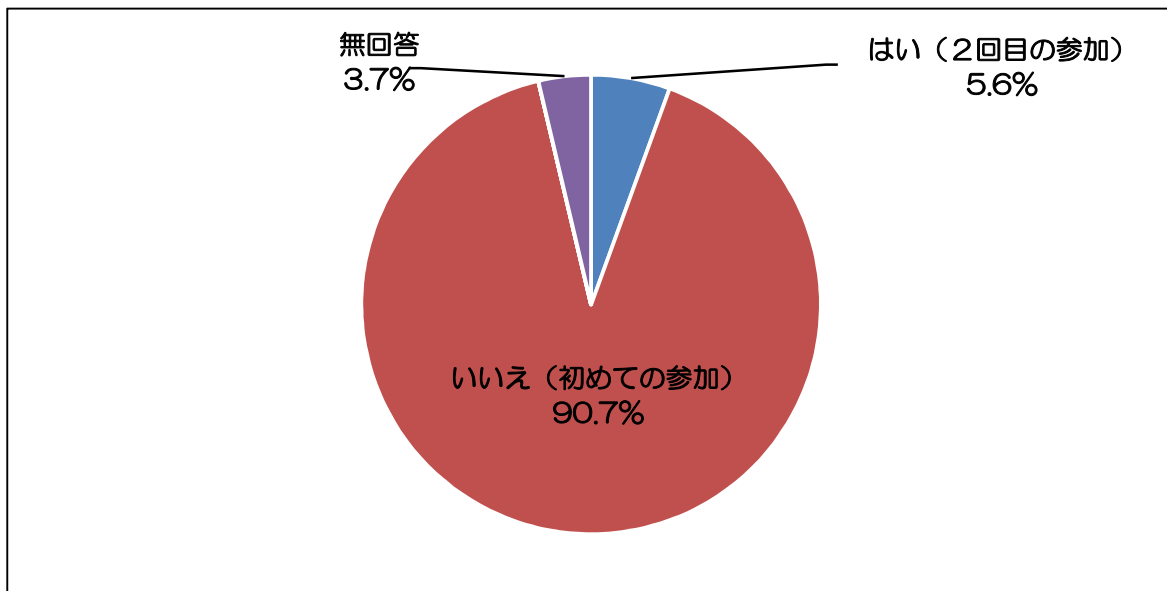
昨年は9割近くが男性でしたが、今回は参加者の3割近くが女性でした。年代別では60代・70代以上が約半数を占めていますが、10代6人、20代2人と、学生の参加が増加したことと、テーマに関わりが深いPTAに参加を呼びかけたこともあり、30代、40代の参加が増え、年代のバランスが良くなっています。

◆問4：意見交換会の開催情報は何かからお知りになりましたか。



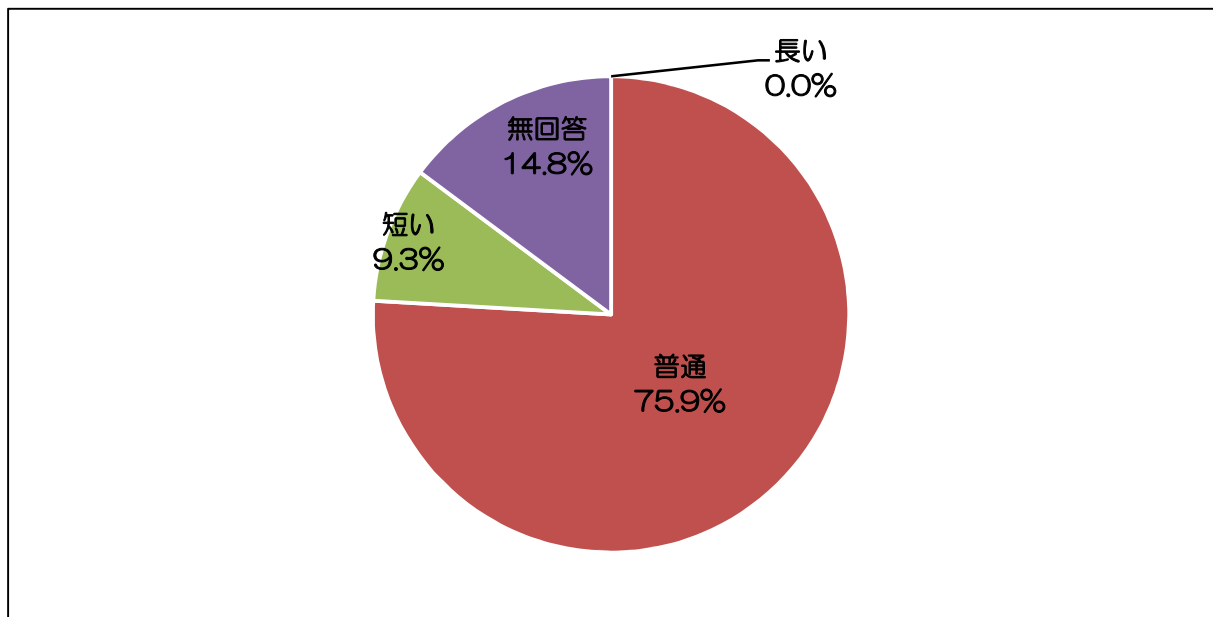
「広報ながの」が約3割と一番多く、次いで「議員」が約24%と目立ちます。「広報ながの」、「市議会だより」、「ホームページ」など文字媒体が半数近くを占める一方で、その他として、「大学の先生からの声掛け」と「地域の会合における呼びかけ」などがあり、直接的な声掛けも参加に結びついていると思われます。意見交換会へのお誘いをいただいた皆様に感謝します。

◆問5：昨年から「市民と議会の意見交換会」を初めて開催し、今回で2回目の開催となりますが、昨年に引き続いての参加になりますか。



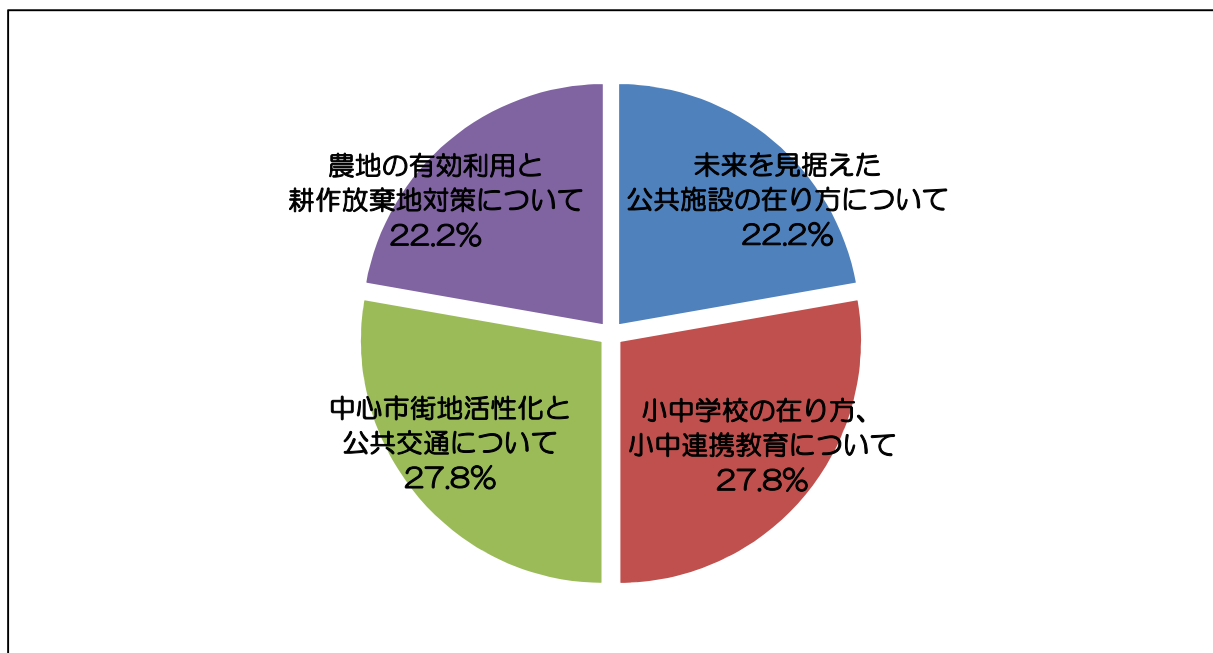
初めて参加された方が、約9割と多く、昨年と同様、継続的に参加される方は、少数でした。

◆問6：意見交換会の時間はいかがでしたか。



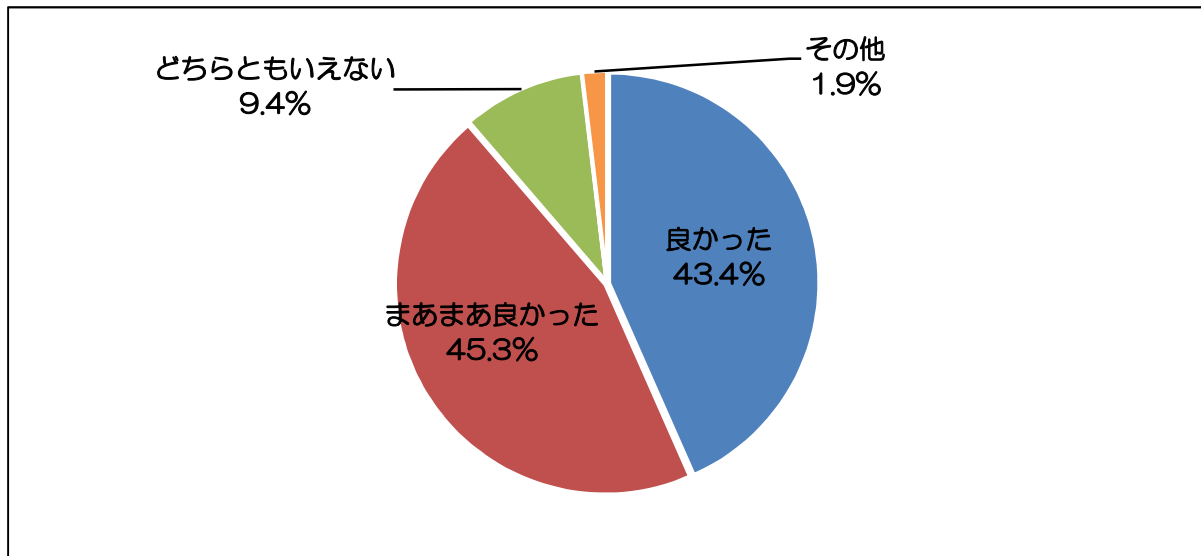
長いと感じた方はなく、時間は概ね好評だったと思います。

◆問7：意見交換会はどの「テーマ」で参加しましたか。



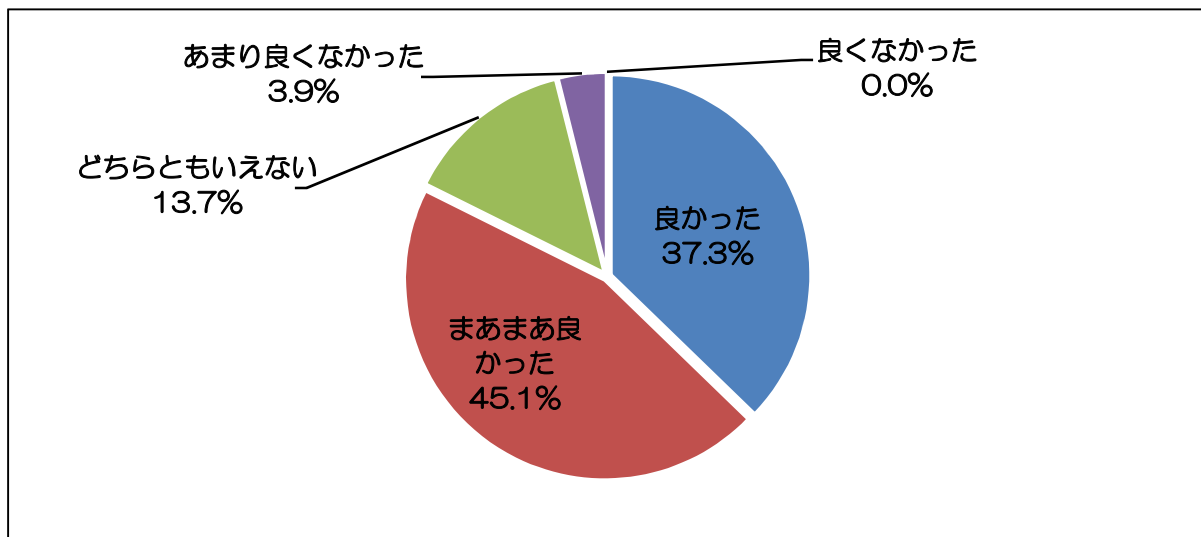
参加者数の大きな片寄りもなく、バランスよくテーマ別の意見交換会が開催されたと思います。

◆問8：意見交換会の「テーマの選定について」はいかがでしたか。



約9割の方が「良かった」「まあまあ良かった」と概ね評価をしていただきました。良くなかったとの回答は、見られませんでした。今後のテーマ要望としては、「介護」、「スポーツイベント」、「指定管理者制度」、「少子高齢化」、「行政と住民自治協議会の在り方」がありました。

◆問9：今回の意見交換会はいかがでしたでしょうか。



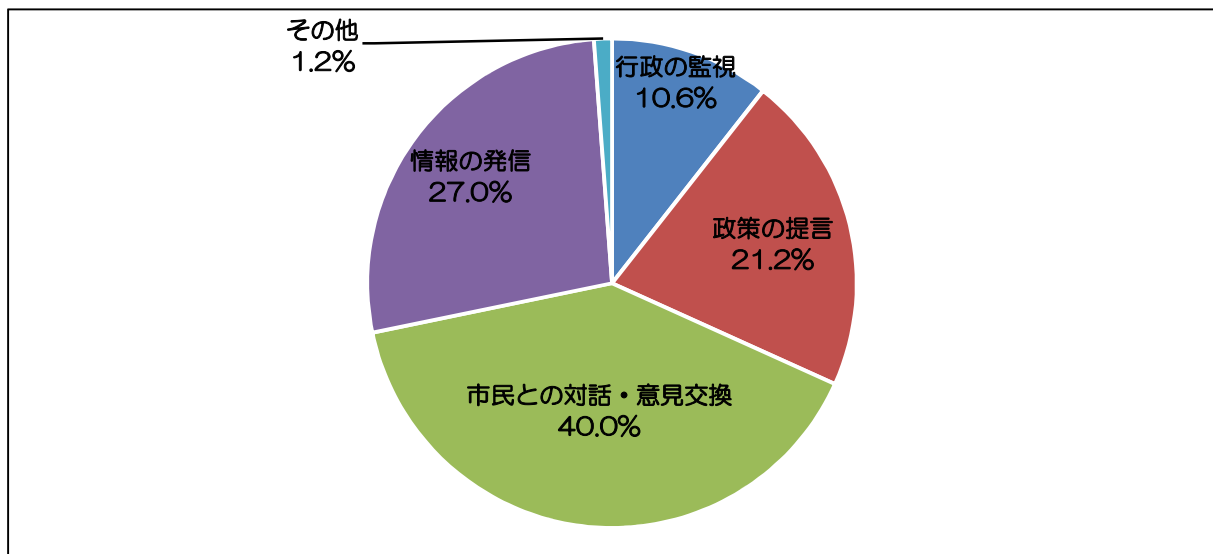
「良かった」「まあまあ良かった」を合わせると82.4%となりました。一方、あまり良くなかったという感想も約4%と少数でしたが、その理由として、意見交換までの時間が長いこと、意見交換になっていないこと、具体的な議論がなされていないことなどがありました。意見交換会という名称とのギャップが課題とされます。

◆問10：今後、意見交換会に望むこと、開催・運営方法等について、ご意見がありましたらお書きください。

- ▶ 学校の統合は親としてもとても心配。具体的な案を考えた上で、小学校の1～4年、5・6年、中学校の9年間の案を示してもらわないと今後、親子とも不安になる。通学の問題などしっかり考えた上で、現実的な事を考えてほしい。
- ▶ 大規模校、小規模校のメリット、デメリットが見えた。色々な意見が聞けて良かった。中山間地では少子化のスピードがとても早い。全市で学校の在り方を考えていくのはとても良いし、やるべきだが、その間も中山間地の少子化のスピードは変わらない。小規模特認校導入を信更地区としては要望しているので、そうしたことも考えてほしい。
- ▶ 教育委員会や市PTA 联合会の方にも同席頂いた方が良いと思う。
- ▶ 市内の生徒数変化率など参考になった。学校の先生等、内部の率直な意見をどんどん聞いてみたい。
- ▶ 今現在の小学生の教育環境を整えてほしい。1 クラス28名位で運営してほしい。教員の目が一人一人の子どもに届いていない。教員採用後の教育制度を充実した方が良い。小学校も専科担任にした方が良い。
- ▶ 未来交通を行政にぶつけてほしい！市主体で政策作りを！交通政策の構造的改革必要！
- ▶ 中心市街地と郊外を含む公共交通の話が平行して話されることに違和感がある。2 テーマに分けて意見を聞いた方が良いのではないか。議会に対し市民が一方的に意見をぶつけるための会ではなく、様々な意見が聞ける機会としてほしい。全体的にととても良い会だったが、若年者の参加を促せるような情報発信をしてほしい。
- ▶ 公共交通でバスの要望が多かった。長電バス株式会社の社長参加があり最後に話が合った。参加者の意見を一方的に聞く場となった感あり。可能な事は回答が欲しかった。9月議会では諮問されるのか。
- ▶ 長野市の学生にとって自分の住む地域、学ぶ地域について考え発言する機会がある事はとても大切なことだと感じる。これからも継続してほしい。実際に農業に携わる方々のリアルな意見、困りごとを知る貴重な機会になった。
- ▶ 会場で配布された資料は農業センサスの全国版。長野市の資料を出していかなければ対策が出せないのではないか。議員と話すのもよいが、参加者と発言出来る様にしないと今日の会合で決定実行されるものがない。司会者は司会者として発言するべき。事務局のような発言は慎むべきだ。後半は参加者同士の発言になり良くなった。
- ▶ もっと統計的な資料が欲しい。農地は今後どうなるのだろう。大規模化（認定農業者、農業法人）できないものはどうしたらよいのか。
- ▶ もっと絞った取り組みの問題を議論した方が良いのではないか。例えばあなたならどんな取り組みが考えられるのかなど。
- ▶ 各種関係団体以外、一般住民の参加をより求められたい。
- ▶ 10時に始まり、意見交換の実質スタートまで30分。進行の無駄が多い。委員会の人々が聞くだけで交換ではない。相談への解決策、代替案がほとんどない。
- ▶ 川中島地区の区画整理がほとんどされていない。区画整理をお願いしたい。

- ▶ 一年に、複数回の開催を検討してほしい。
- ▶ 盛り上がりに欠けた。
- ▶ 一方的な意見を押し付ける意見交換だったと思う。
- ▶ 特に意見を持たずに気楽に参加したが、幅広い年代の方の意見を聞いて良かった。引き続き、ワークショップなど頑張してほしい。
- ▶ 意見交換のテーマの取り組みのメリット、デメリットを提示して、それについて議論できればよかったと思った。
- ▶ 地震の為、開始時間が遅れたこともあるが、もう少し時間を長くとった方が良いと思う。論点が少しずつずれていくので司会の方はもっと注意してほしい。
- ▶ 今後の参考になった。地元でも開催したい。
- ▶ 学生が来て意見交換するように声掛けをもっとした方が良いと思う。
- ▶ 議会には、市民の声があったら現場調査する事を望む。議員の発言で「自助」には疑問。
- ▶ 時間的に短いのでもう少し長く。意見を言えばなし、聞きっぱなしではなく話し合える関係者の出席を公式に要請したらどうか。
- ▶ 良い機会だった。
- ▶ 意見交換会なので一方的にいうだけでなく返答の場を設けてほしい。
- ▶ 初めて参加し、意見を話せたのは良い経験だったと思う。しかし、やむを得ないかもしれないが、地区と名前をみんなの前でいうのは少し抵抗があった。
- ▶ 今後も続けてほしい。
- ▶ 介護問題は待たなし、住民自治協議会任せにしているが、できている所としない所、地区によって様々。意見交換会のテーマにしてほしい。住民の意見を聞く上で大切な機会だと思う。もっとたくさんの意見を持ち寄れる会に出来たらよいと思う。もっとたくさんの参加があるかと思ったが…。
- ▶ 昨年のもも含め、回答が全くないのではやる意味がないと思う。
- ▶ 初めて参加したが良かった。来年も参加したい。
- ▶ 議論したことを少しでも実現してほしい。
- ▶ テーマ別に割り切れない項目あり。トータルなテーマは別扱いで先行してほしい。毎年意見を聞いても、次年度に返答してほしい。毎年一方向の意見では意味がない。
- ▶ 様々な考え方があり、他地区のことが分かり、今後の活動に取り組んでいきたい。
- ▶ 行政方針等、連携した将来を考えた具体的な施策を示してほしい。
- ▶ もう少し参加者が増えると良いと思う。
- ▶ 回数を増やしてほしい。
- ▶ 定期的に設定されたい。行政との交流の場をもっと設定されたい。
- ▶ それぞれの立場の異なる皆さんの多様な意見を伺うことが出来て、大変参考になった。

◆問11：今後、市議会に期待することはどのようなことでしょうか。（複数回答可）



最も多くの人を選択したのが、「市民との対話・意見交換」（40%）でしたが、情報の発信、政策の提言などへの期待も少なくありませんでした。

…ご協力ありがとうございました。